

令和7年度 第2回飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録

開催日時	令和7年9月 29 日(月) 19:00~21:15
開催会場	飯田市役所 C311~C313 会議室
出席者	審議会委員:後藤正幸、三浦弥生、會川百樹、原 雅彦、玉置洋一、飯島政樹、松岡香代子 (敬称略) 山浦貞一、吉野久美、村山雅也、勝野久美恵、下沢晃世、伊藤桂子 (オンライン)坂野慎二、井出隆安 オブザーバー:北澤正光(飯田市教育長職務代理)(敬称略) 事務局:熊谷邦千加教育長、秦野高彦教育次長、上沼昭彦教育政策課長、 伊藤寿学校教育課長、北澤孝郎教育センター所長、北澤五月総務係長、 萩元謙一教育企画係長、前澤紀彦教育施設係長、 佐々木美鈴学校教育課長補佐兼学務係長兼教育センター所長補佐 仲田好寿保健給食係長、木下正史児童クラブ係長、久保田正則指導主事、 木下耕一学園支援係長、榊原研太教育指導専門主査、 片桐和子教育支援指導主事、下岡祥平主査、三ツ井洋樹主査
配布資料	1 次第 2 配席図 3 委員名簿 4 第1回審議会の振り返り 5 今後の審議の方向性について 6 遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望 7 「遠山郷学園における学校の配置・枠組み等についての要望」に対する回答 8 遠山郷学園における小学校の再編に向けた基本方針 9 本日の審議について 10 第2次答申に向けた論点整理のための個人ワークシート 11 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークシート 12 第2回 飯田市これからの学校のあり方審議会 グループ委員名簿 13「遠山郷学園会議」の設置と検討の経過 14 遠山郷学園だより 2025 年5月発行 15 2025 遠山郷学園グランドデザイン
記録者	事務局 三ツ井 洋樹
事務連絡 (事務局:萩元教育企画係長) 皆様こんばんは。審議会の開会に先立ち、事務局から連絡させていただきます。 本日、坂野委員、井出委員に関しましてはウェブでの参加でございますが、全員の皆様ご出席でございますので、本会議は成立していることを確認させていただきます。 続いて、本審議会の公開についてです。基本的には公開させていただきたいと思っておりますが、会議録の公開にあたって、委員の皆様のお名前を公表するかどうかという点で、この場でお諮りいたします。本日の会議録ですが、氏名を公表することよろしいでしょうか。 (意義なし) ありがとうございます。それでは、本会議で発言される委員の方のお名前を公表させていただきたいと思います。開会の時間までいましてはばらくお待ちください。 1 開会 (進行:後藤会長) 後藤会長 皆様、改めましてこんばんは。定刻になりましたので、ただいまから、令和7年度第2回飯田市これからの学校のあり方審議会を開催いたします。本日は公私にわたりご多忙の折にも関わらず、	

本審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。リモートでご参加いただいている坂野委員さん、井出委員さんにおかれましても、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、次第に基づきまして進めてまいります。開会にあたりまして、熊谷教育長よりご挨拶いただきしたいと思います。

2 熊谷教育長あいさつ

改めまして、皆様こんばんは。お仕事等でお疲れのところ、夜遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。

市内小中学校では 2 学期がスタートし、小学校では運動会、中には音楽会という学校もあるかと思いますが、中学校では文化祭、学芸会という学校もありますけれども、それらに向けての準備が進んでいる状況です。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、運動会や文化祭は昔と違ってきています。例えば、運動会では時間が午前中だけというように短くなり、今まではどうしても見栄えのいい素晴らしい発表をしようというようなことを先生たちも求めて、保護者の皆さんも、地域の皆さんも、見事な発表に感動を覚えるような運動会、文化祭だったのではないかと思います。今、みらい創造科の授業のあり方を考え、探究する学びに変えていきたいと考えていることも含めて、こどもの主体性を大事にして、結果の見栄えではなく、その過程を大事にするということを大事にさせていただくよう学校現場にお願いをしているところです。

授業もそういった方向ですし、学校行事も替わってきていますので、昔と同じものさしで見てしまうと、こどもたちも苦しく、先生たちも厳しいなと感じる面があるものと思います。こどもたちが最初の段階からどのくらい成長したのか、生き生きと楽しそうに頑張っているのか、一生懸命やっているのか、そういう姿を評価をしていただくと、こどもたちも喜ぶのではないかと思いますし、そのように変化をしてきている時代だなということを改めて思っているところです。

さて、本日は、本年度の審議会 2 回目となりますけれども、遠山郷学園の小学校再編に関する取組から学ぶことをテーマとして会議を開催したいと思います。これまで先行的に進めていただいた遠山郷学園の小学校の再編に向けた準備を今まさに進めているところですが、もちろん教育委員会もこれまでのところに関わらせていただいておりますけれども、メインは遠山郷学園の地域の皆様方が、保護者の強い期待や声を受け、地域の皆様方の声をまとめて要望書として出していただき、今、再編という形が進もうとしているところです。ここまで至るまでに何回も会議を重ねて、そのエネルギーは、本当に大変なことであったと、感謝を申し上げるとともに、敬意を表するところです。本日は、その中での苦労されたお話もしっかりとお聞きしながら、今後の学校のあり方について、観点や視点を見い出しながら進めていければと思います。そのため、今回初めてグループワークの形で協議をしていただきますが、今後、学校のあり方について審議する中で、こういった視点・観点を議論すべきか、どのような考え方・見方をするべきか、あるいはどのようなことに留意すべきか等を出していただければと思っております。ぜひ、グループワーク等の中で、忌憚のないご意見を出していただいて、今後に繋げていけたらと思います。本日はよろしくお願いいたします。

3 後藤会長あいさつ

私からも一言ご挨拶申し上げたいと思います。本審議会が、令和5年5月25日にいただきました二つの諮問のうち、一つの答申は終わっているわけではありますが、もう一つの答申に向けて、具体的な協議がいよいよ始まることになります。どうか皆様方、今日は初めての試みで、グループワークを実施してみたいと思いますが、快い会議にできたらと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に基づきまして会議を進めてまいります。

4 報告事項

(1) 第1回審議会の振り返り（説明：萩元教育企画係長）

それでは、「第1回審議会の振り返り」についてご報告いたします。

資料は、右肩に資料 No.3及び資料 No.4と記載の資料をご準備ください。まず、資料 No.3ですが、令和7年度 第1回審議会の振り返りとして、前回審議会の審議の要点をまとめたものです。第1回審議会は、7月1日に本会議室で実施いたしました。新たな体制での審議会の開催となりましたので、任命書を交付させていただいた後、2ページ目の中段になりますが、正副会長を選任いただき、本日も司会をいただいております後藤委員に会長を、三浦委員に会長を補佐する副会長をお願いすることを委員の総意で決定いたしました。

2ページ目の下段になりますが、議事では、まず、諮問事項の確認、令和5年度及び令和6年度の審議の振り返りをいたしました。資料 No.4をご覧ください。2ページ目にありますとおり、諮問事項のうち、「特色と魅力ある教育活動のあり方について」は、令和6年4月 11 日に一次答申をいただき、令和7年4月から飯田学園構想がスタートしている点を確認いたしました。その上で、諮問事項「飯田市立小・中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について」、危急の課題ではあるものの、学校が果たす役割や国の審議の進捗に鑑み、慎重に議論を進める旨を確認し、資料4ページの下段にあるとおり、「飯田学園構想」を着実に実施するにあたり、小中学校の配置・枠組みはどうあるべきかという視点から議論を進めること。現段階で、学校再編に関しては、教育委員会主導で再編を進めていくトップダウン方式ではなく、地域と協働であり方を検討していくボトムアップ方式をとっており、今後の審議では、このボトムアップ方式のメリット・デメリット、学校の規模、優先的に検討する学園やその検討の進め方などを、令和8年度までの2カ年で審議するという審議の方向性を確認いたしました。また、資料5ページのとおりに、第2次方針の基本的な考え方として、基本方針及び5つの視点を確認いたしました。

資料 No.3の3ページにお戻りいただきまして、ただいま説明した今後の議論の方向性や2次答申の考え方について、坂野委員から、ボトムアップ方式については理解するが、「教育委員会の方で案を出してくれないと、なかなか先に進まない」という意見がある点をご指摘いただき、市教委として固定したものということではないにせよ、案としてはこのような案があるというところを示す必要があるとのご意見をいただきました。また、井出委員から、第1次答申に付帯意見として、「学校、家庭、地域と十分協議して検討を進めること」としていることに言及いただき、学校の再編が、地域の再生、あるいは地域コミュニティの活性化、あるいは家庭の教育力の再生、もっと広く、地域の教育力の再生に繋がる手続きであり、手順であり、取組だということを心して議論する必要があるとのご指摘をいただきました。

こうしたご意見やご指摘は極めて重要な点を捉えていただいております。本日から審議を進めるところの、ボトムアップ型の取組における行政及び教育行政のスタンスや関与の具合に関わる方向性をお示しいただいております。本日以降の審議の中で、具体的に議論してまいりたいと考えております。第1回審議会の振り返りについては、以上です。

後藤会長 事務局から7月1日に実施した第1回審議会について、まとめて報告をいただきました。今後の審議のための確認事項ということでございますので、聞き置くことにしておきたいと思っております。

(2) 遠山郷学園における小学校の再編について

後藤会長 続いての報告事項にまいります。もう既に皆様方、新聞報道等でご存じのことと思いますが、前回の審議会開催後に、飯田市教育委員会から遠山郷学園内の二つの小学校の再編に関する方針が示されました。この件については、昨年度の審議会において、玉置委員さんから地域の議論の

状況をご報告いただいているところではありますが、地域での議論を踏まえたボトムアップで提出された要望書のことも含めて、事務局から説明をお願いします。

事務局 秦野教育次長 それでは、遠山郷学園の小学校再編につきましては、上村、南信濃両地区から提出されました要望書に対する回答と、遠山郷学園における小学校再編に向けた基本方針を資料 No.5、6、7で用意させていただいておりますのでご覧ください。

まず第一に、5月7日付けで地域から、遠山郷学園における学校の配置・枠組み等の要望に対し、8月4日に開催された臨時教育委員会で遠山郷学園における小学校再編に向けた基本方針を決定しました。この基本方針に基づき、同日に上村、南信濃両地区に対して、ご回答を差し上げたところです。

資料 No.5は、両地区から提出された要望です。現在の遠山三校の児童生徒数の現状に鑑み、できるだけ早期に二つの小学校を一つに再編すること。再編する小学校は上村小学校の施設を活用して、中学校は現在の遠山中学校を活用するということ。魅力ある教育活動の実現に向けた教職員の適正配置、特に国の基準にとらわれず、教育力の低下や教員の負担増にならない配置を求めるということ。そして、再編時期につきましては、令和8年4月1日とするというご要望をいただいております。このご要望に対し、教育委員会では、資料 No.7の基本方針を策定し、この基本方針に基づき、資料 No.6の回答をさせていただきました。

ここからは、資料 No.7を中心に説明します。まず、要望書の遠山郷学園における学校の配置・枠組みについてです。教育委員会の基本的な考え方ということで、2点を定めております。一つは、両地区の急激な少子化の進行による教育環境の変化に関する地域の皆さんの危機意識を受け止めまして、学校は児童生徒の豊かな学びと成長を保障する場であることから、児童をまんなかに置いて、児童にとってよりよい学びの環境と安全安心な教育環境を確保する取組を進めるということ。また、学校は地域の将来の担い手や支え手となる人材を育む場でございまして、学校、地域、家庭との対話を通じて合意形成を図っていくということです。二つ目は、これからの学校のあり方に関する審議との関係ですが、遠山郷学園内の小学校の再編につきましては、先行的な取組として、学校のあり方と同時に進めていくということにしております。

この考え方を基本に5つの方針を定めました。第一に、小学校の体制は、現在の1中学校、2小学校体制から1中学校、1小学校体制へ移行をすること。第二に、学校施設について、再編後の小学校は現上村小学校の施設を利用すること。第三に、児童をまんなかに置いた再編過程として、両地区からは令和8年4月1日の再編をご要望いただいておりますけれども、基本方針では、令和9年4月の完全再編に向けて、令和8年4月から実質的な再編となる合同授業を実施しつつ、取組を進めていくということです。こちらは両地区のご要望と1年間のずれが生じる理由でございまして、教育環境の変化により、児童に与える影響を極力抑え、新しい学校生活へ円滑に移行するためには、一定程度の時間をかける必要があるということです。具体的な進め方につきましては、第1から第3フェーズとして示しています。第四に、再編後の小学校もこれまでと同様に小規模特認校に指定すること。第五に、再編の推進体制として遠山郷学園小学校再編検討委員会を設置して協議することの以上、5つの基本方針に基づき、具体的に再編を進めてまいりたいと考えております。

もう一つ、ご要望の中に教職員の適正配置もございました。こちらにつきましては、学校現場における再編に係る業務の日常の教育活動への影響を最小限に抑えるために、活力ある学校づくり中核教員の配置実現に向けて注力をしていくということ。また、再編に際しましての教育活動の検討の中で、長野県教育委員会への働きかけに加えまして、現在の市教育委員会の独自加配の継続についても検討をしていくことを回答しております。

今後のスケジュールでございますけれども、令和7年9月30日に遠山郷学園小学校再編検討委員会の第1回全体会議を開催の予定です。今後、さまざまな調整を経て、令和9年4月の完全再編に向けて取り組んでまいりたいと思います。簡単ではございますが、説明は以上となります。

後藤会長 ありがとうございました。令和9年4月の完全再編に向けて、極めて短い期間ではありますが、地域で、あるいは教育現場で、児童をまんなかに協議、準備していく方針が示されたということでお聞きました。この内容について、ここで議論をするということにはならないわけですが、今後の審議会の議論に関わる部分もありますので、あるいは基本的な部分でもありますので、委員の皆様方で確認しておきたい点、質問がある方はお願いします。

（委員からの発言なし）

ありがとうございました。ご質問等はないようですので協議に入りたいと思います。

5 協議事項

（1）本日の審議について

後藤会長 それでは、本日の審議の進め方について、事務局より説明を受けたいと思います。

事務局 上沼教育政策課長 それでは本日の審議の進め方について説明いたします。お手元の資料 No.8をご覧ください。

1ページ目ですが、本日の審議会の内容、進め方の全体像を記載しております。下段の2ページをご覧ください。本日の審議の目的です。これまでの審議の経過を踏まえ、今後、第2次答申等の策定に向けましては、飯田学園構想を着実に実施し、学園において特色があり、魅力的な教育を進めていくための教育環境は、どのような状態なのかを、地域における児童生徒数及び施設の面から検討を進めてまいります。その検討方法としては、学校のあり方の検討が地域コミュニティの活性化、家庭や地域の教育力の再生につながる手続きなどであることから、ボトムアップ方式が妥当と認識をいたしますが、地域課題に対する対応策としての案、学校のあり方検討に入る契機の設定、検討体制などを含め、行政及び教育行政のスタンスや、関与具合に関わる方向性を具体化していく必要があります。これが第2次答申につながるものと考えています。これを踏まえ、本日の審議会では、先行的な取組の遠山郷学園内の小学校再編の取組、これを参考事例として、委員の皆様個人ワークやグループワークをお願いし、今後、地域、保護者、学校、教育委員会が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出し、第2次答申に繋げていければと考えています。

資料3ページ目をご覧ください。本日の審議の進め方です。丸いイラストにて左から右へ、審議の進め方を示しております。詳細は後ほど説明しますのでポイントのみ触れさせていただきます。大きな流れといたしまして、まず先行事例報告として、玉置委員から遠山郷学園の小学校再編に向けた取組をご報告いただきます。次に、資料 No.9を用いまして、個人ワークを行います。玉置委員からの報告を聞き、気づいたこと、感じたことをこちらの資料に記入いただきます。次に、机の上に用意いたしました、資料 No.10を用いましてグループワークを行います。個人ワークで気づいたことをグループ内で意見交換しながら整理していただきます。そして、各グループからグループワークの結果等を発表いただき、皆で共有するとともに、坂野委員、井出委員よりコメントをいただきます。そして最後にそれらを踏まえ、ワークの感想等を、資料 No.9の裏面にご記入いただき、ご提出いただくというのが、本日の流れです。この一連の取組を通じて、委員の皆様から様々なご意見等をいただく中で、今後、関係者が協働して学校のあり方検討を進めるための重要な論点を抽出することが、本日の審議会の目的です。

資料4ページをご覧ください。これから玉置委員よりご報告いただきますが、報告をお聞きいただく際のポイントを記載しています。先行的な取組として進めている遠山郷学園小学校再編に関して、遠

山郷学園会議や地域の取組を今後の参考とするため、次の3つのポイントについて玉置委員から発表をいただきます。一つ目は、遠山郷学園会議の組織のきっかけと苦勞したことなど、二つ目は、議論の進め方、いわゆる合意形成を図っていくプロセスの中で苦勞したこと、三つ目は、要望をまとめ、市や市教育委員会に提出することとしたきっかけです。玉置委員、何卒よろしくお願いいたします。

資料5ページをご覧ください。あわせて資料 No.9もご覧ください。資料5ページ目は、報告をお聞きいただく際の2つのポイントを記載しています。資料 No.9は個人ワークの様式となります。委員の皆様におかれましては、個人ワークシートを作成いただくにあたり、以下の2つのポイント、4つの視点を持って、玉置委員からの報告をお聞きいただき、気づいたこと、感じたことを書き留めていただければと思います。

ポイントの一つ目ですが、重要な点、大切にすべき点、今後の参考になると感じた点についてです。遠山郷学園の取組報告をご自身のお立場で、今後、ご自身の地域で、保護者、学校、教育委員会が協働で学校のあり方の検討を進める際に参考となる点、大切にすべき点、重要な点につきまして、①の視点として、地域や保護者の取組として、今後参考となる点や大切にすべき取組や考え方を、②の視点として、市教委や市の考え方、取組の支援について評価できる点、今後の取組に生かせる点をお聞きいただければと思います。

続いて、ポイントの2つ目ですが、取組の障害、いわゆる検討を進めていく上での難しさとなっている点、気になる点等についてです。ポイント1と同様に、ご自身の立場で学校のあり方検討を進める際に、障害となっている点、気になる点、改善した方が良い取組について、③の視点として地域や保護者の取組として、④の視点として市教委や市の考え方、取組や支援について、お聞きいただければと思います。後ほど説明いたしますが、シートの作成やその意見を付箋に書く時間がございしますが、5分程度となりますので、玉置委員のお話をお聞きいただきながら、その都度、シートにお書きいただくと良いかと思います。本日の審議の進め方は以上でございします。

後藤会長 ありがとうございます。これからの審議についてご説明をいただきました。この後、早速、検討に入りますが、初めての試みですが、円滑な協議といえますか、気持ちも楽にしながら進めていただければと思います。それでは、以降のファシリテートを事務局の皆さんにお願いしたいと思います。

事務局 上沼教育政策課長 それでは続きまして、資料6ページをご覧ください。これより玉置委員からご報告いただきます。時間は20分でございます。先ほど説明させていただきましたが、お聞きいただくポイントを参考にして、資料 No.9の個人ワークシートに気づいた点等をご記入いただければと思います。何を書いたらよいかわからない等、戸惑いもあるかもしれませんが、何が正解といったことはございせんので、ご自身が感じたこと、気づいたことをそのままご記入いただければ幸いです。なお、資料6ページになりますが、玉置委員からの報告の後、質問の時間を5分程度取ります。個人ワークシートに気づいた点等を記入する上で、わからない点や確認したい点等があれば、質問を出していただければと思います。それでは玉置委員、よろしくお願いいたします。

(2) 遠山郷学園における学校のあり方検討について (報告者:玉置委員)

皆さん、こんばんは。南信濃の玉置と申します。着座にてお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今夜は、貴重な時間をいただき、うまく説明ができるか不安ですが、遠山郷学園会議の立ち上げたこと、それから、和田小学校、上村小学校の2校の小学校の再編要望を飯田市教育委員会へ提出し、先ほどの秦野教育次長から説明があったとおり、教育委員会からご回答をいただいたことを含め、今までの経過等を含めまして、概略をお話いたします。

まず、私たちの地域については、平成17年に飯田市に編入合併いたしました。その当時の人口が南信濃で約 2,200 人、上村で780人で、ちょうど合併して20年の今年8月末現在で、南信濃1,006 人、上村309人と、約半分に減少しました。人口が一番多い時期は、昭和20年前後で、南信濃は約 6,000 人、上村が約 2,600 人と、約 9,000 人弱の人口があった時代もありました。80年経過して、このような人口になっていますが、当然にして、学校の児童生徒数も、私の頃の昭和31年頃は、和田小学校で500人、遠山中学校も当時、八重河内、南和田、木沢という集落がございまして、全校で500人ぐらいの生徒数でした。令和7年度の遠山中学校の生徒数は21名、和田小学校の児童は現在15名です。複式学級3学級という状況の中で学校運営が行われています。この2・3年、和田小学校の入学児童は1名という状況で、令和7年度は地元の児童はおらず、地域で取り組んでいる親子留学制度を活用して市外から一時的に児童2名を迎えて入学式を行ったというのが現実です。このような状況において、保育園、小学校、遠山中学校の児童生徒数の激減の状況は、日増しに、地域の中、保護者、学校関係者、特にまちづくり委員会等では、危機感の高まり、課題認識がされるようになってきました。両地区では、園児数、児童生徒数の減少を見据える中で、上村地区では小規模特認校制度の運用を、南信濃ではもう10年ぐらい経ちますが、やまざと親子留学に取り組むなど、児童生徒数の確保に資する様々な取組を進めてきました。また、両地区が一緒になって、学校をテーマにした遠山郷フォーラムの開催やまちづくり委員会と連携して、南信濃では「南信濃1500委員会」を組織し、夢の1500人の人口規模にしていこうというような取組を進めてきました。やまざと親子留学もその取組の一つであります。それから、上村ではつなぐチームという組織を組成し、子育て世代の親がこどもに上村の生活を教えるというような交流活動をして移住定住に向けた取組も行っています。

そういった活動を根っこにしながら、令和4年度末には、保育園から中学校までの12カ年の子ども像を共有する2園3校のランドデザインを作成しました。お手元の資料 No.14をご覧くださいと思います。遠山郷学園ランドデザインは、2園3校で取りまとめたもので、裏のページを見ていただくと、タイトルは「遠山郷を愛し、誇りを持ち、未来を共に創る人づくり」をスローガンとして、保育園、小中学校、それから家庭や地域が課題共有をして取り組んでいこうと、令和4年度にみんなでまとめ上げたものです。そのように2地区が一緒に協力しながら取組をしてきた経過でございます。

遠山郷学園の組織化のきっかけに関しましては、先ほどお話ししたような経過を辿る中で、前年度の審議会でも度々お話ししましたが、私たちの地域では、学校の再編は、待たなしである、まさに崖っぷちであるということ、現状認識の中で、話をしてきたつもりです。具体的なアクションとして学園会議を立ち上げ、それぞれのまちづくり委員会で諮り、遠山郷学園会議小委員会を令和6年4月に立ち上げました。構成員は、両地区のまちづくり委員会や公民館長、2園3校の保護者の代表、それからもう一つは、若年層の代表ということで未就学児童の保護者にも入っていただきました。そんなことで小委員会を立ち上げて、令和6年6月には、遠山郷学園会議全体会議として、学校の校長先生、保育園の園長先生にも加わっていただきました。構成員は全員で22名、令和6年6月6日には全体会議を開催しました。

この全体会議のミッションは3つございます。一つは、遠山中学校の小規模特認校の指定。これを市教育委員会にお願いすること。それからもう一つは、令和6年度末までに、遠山三校配置・枠組みについて方針を決定すること。そして、令和7年度から遠山中学校の小規模特認校の導入をスタートさせることの3つをミッションとして会議を重ねて来しました。また、令和6年度の市長と語るまちづくり懇談会においても、学校の課題を両地区のテーマとしながら議論を進めたりする中で、小規模特認校につきましても、市教育委員会の皆さんにご努力いただき、比較的早い段階で認めていただいたという経過です。特に、遠山中学校の小規模特認校導入をお願いする根拠としては、遠山中学校が複

式学級になる可能性があったということで、早急に課題として取組をしなくてはならないという考え方でした。複式が悪いというわけではないのですが、やはり希望としては、各学年1学級で教育活動を進めていきたいという保護者の皆さんの考え方もあってということです。また、将来の魅力ある学校づくりに向けまして、自分たち自身が学習する必要も感じる中で、学園会議で小中一貫校または義務教育学校において、施設一体型や施設分離型等の他地区の情報を集めたり、具体的には大町市立八坂小中学校の視察を行いました。

このような状況の中で、遠山中学校の小規模特認校制度が令和7年度に導入することに一定の目途が立ちました。しかしながら、遠山三校の配置・枠組みに関しては、なかなか腹を割った検討を進めることができませんでした。それは両地区それぞれにとって、学校が大切な場所であって、この議論の口火を切ることすらためらいを感じていたことがありました。一方、学校のあり方審議会では、令和6年10月に第一次方針が出されたものの、具体的な配置・枠組み関しての方針は示されませんでした。今後検討される第二次以降の方針を待って遠山郷学園の検討を進めていては、児童生徒数の状況から考えても、もう待ったなしの状況ですから、地域側から様々な方法で声を上げていく必要があるという意見が出されるようになり、両地区のまちづくり委員会の連名で、市長・教育長へ要望、地域協議会に意見付議等の方法も視野に入れた検討を進めてきました。

一番苦労したのは何を大切にするかという点です。これまでの保護者の皆さんなどの意見を踏まえて、児童生徒の教育環境や地域コミュニティといった視点で議論をしてきましたけれども、学校のあり方審議会の方針を抑えた中で、ハード面やソフト面の課題を出したり、児童生徒の教育環境や地域コミュニティから見た課題を整理して、2地区の役員で議論をしてきました。

これを基に、両地区の未満児の子育て世代の保護者も含めた、それぞれの子育て世代の皆さんと意見交換を行う中で、やはり、迅速に協議を進めてほしいということが多く提案されました。特に個人的に印象に残ったのは、遠山が好きで、ご夫婦で将来もこの遠山に住みたいけれど、仕事がないので、遠山に居を構えて、仕事は旧市内へ通うという保護者がいて、ここで子どもを学校へ通わせたいから、学校の配置は上村でも南信濃でもどちらでもいいという意見がありました。早く配置・枠組みを決めてもらいたいという保護者の方もおられました。何か背中が押されたような気持ちになりました。

このような状況の中で上村・南信濃地区の両まちづくり委員会は、これからの世代の意見を最大限に尊重して、迅速かつ子どもをまんなかに置いて、児童生徒にとって良い学びの環境をつくることを強く願って、2つの小学校の再編を要望することにしました。

ここに至るまでの検討については、この審議会の議論を重ねてきた第一次方針の中でも、特に子どもをまんなかに置いて、児童生徒にとってよりよい学びの環境を作ること、そして、学校は地域コミュニティの拠点であるとともに、地域の将来の担い手や支え手となる人材を育む場であるという、この2点を大切に検討してきたところです。これも基本的には、グランドデザインに組み込まれています。

最終的に要望書を提出に至った理由は、現在の児童生徒数の推移の将来推計を考えると、3校それぞれが分離型で存続していくことはもう限界があるということです。令和5年度から上村保育園、和田保育園の合同保育も始まっており、合同保育を経験した園児が、小学校進学すると分かれてしまうということがないように、小学校も一つにしていくことを要望した方がいだろうという話になったためです。

将来の学校のあり方が明確に示されない中で、不安を抱えながら子育てをされている保護者の皆さんが、一日でも早い方向性を見出すことが必要であるという判断で、要望書の作成に至りました。要望書の内容については、先ほど秦野教育次長から説明があったので省きます。

その後、要望書の提出をしたことを両地区の全住民に、両地区まちづくり委員会会長からのメッセージを入れ、経過及び要望内容を周知して来ました。その周知した内容については資料 No.13にありますのでご覧いただきたいと思います。遠山郷学園だよりということで、「子供は地域の宝」というタイトルで、南信濃の遠山会長、上村の前島会長のメッセージを入れ、全戸配布し周知してきました。

また、学校の配置・枠組みについては苦しい判断でした。地域が検討を行うということは非常に大変であり、公式の会議だけでも30回以上、それ以外も含めれば、50回はくだらないと思います。資料 No.12をご覧いただき、全ては読みませんが、遠山郷学園会議等で様々に検討してきたことを時系列で掲載してありますので、またお目通しいただければと思います。

今回の私からの報告では、配置・枠組みのことだけをクローズアップした話になりましたけれども、やはりこれからの学校のあり方につきましては、学校再編ありきではなく、まちづくり委員会としてこどもをまんなかに、児童生徒が通いたい学校、そして遠山郷らしい魅力ある教育環境を実現できるように、学校づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。

井出先生がかねてよりおっしゃっている「学校づくりは地域づくり」ということを大切に、まさに遠山郷に住む私たちが主体的に取り組んでいきたいと考えています。

今後、避けて通れない課題が私たちの地域には多くあります。引き続き、市教育委員会、学校関係者、保護者、それから地域の皆さんとの協議を進める中で、より良い形に向かっていければと考えています。他の学園の皆様も遠山郷とは随分状況が異なると思いますが、この議論を参考にさせていただければ幸いです。

報告は以上であります。

事務局 上沼教育政策課長 玉置委員ありがとうございました。それでは、質問の時間をとります。質問のある方は挙手をお願いします。いかがでしょうか。

(質疑なし)

それでは次の個人ワークシートの作成及び付箋への転記に移ってまいります。

資料は8ページですが、先ほど説明いたしました遠山郷学園会議や地域の取組に関するポイントを参考にいただきながら、資料 No.9 の個人ワークシートの表面、①から④について、お気づきの点等を可能な限りたくさん書いていただければと思います。次のグループ別の意見交換の中で、個人ワークシートをもとに全員から意見をいただきたいと思いますので、個人ワークシートに記載した①②のことについてはピンクの付箋に、③④のことについては水色の付箋に、端的な言葉で1枚ずつ付箋に書いて発表の準備をお願いしたいと思います。5分間の時間を取りたいと思いますので、作成をよろしくお願いいたします。

(個人ワークシート及び付箋の作成)

それでは時間となりましたので、これからグループワークに入っていきますが、グループワークをしていただく上でのポイントを確認させていただきます。資料10ページになりますが、ここにはブレインストーミングと書きましたが、これは新しいアイデアを生み出すための発想法とも言われておりまして、自由にたくさんの考え方やアイデアを出すことが大切になります。そのため、グループワークでは自由に意見や考えをお互いに出し合う機会とします。委員の皆さん、それぞれが付箋を貼りながら、なぜ、そのように考えたのか、理由や背景等を説明しつつ、付箋を貼っていただければと思います。その際のポイントにつきましては、多くの意見を出し合うことが大事ですので、発言に対して批判や否定的な発言はしないということをお願いします。感じたことを率直に出すことを優先いただいて、より多くのアイデアを出すことが今後の方針策定に向けたヒント、またポイントが見えてくると思いますので、こんな意見を言ったら恥ずかしいかなといったようなことは不要です。また、個人ワークシートに記載

がなくても、他の委員さんの話を聞く中で、思い付いたことがあれば、付箋に記載して発言を重ねてください。また、一つの事柄につきまして、同様の意見がある場合は、その場で「私もそう思う」というように、最初に意見を出された方が意見を言い終わったところで、重ねて発言を出してください。これは他の人の考え方や意見に共感し、組み合わせたり発展させるために大切なことですので、躊躇せずご発言いただければと思います。そして、出された意見や考え方を集約し、論点を整理する作業となります。意見が出揃ったところで、同様の意見をグルーピングし、そのグループにタイトルをつけて集約をお願いいたします。そして、その意見を集約する中でシート右側になりますが、今後、審議すべきテーマに関する考え等をご発言いただき、グループでご記入をお願いします。

各グループには既に職員が入っておりますが、職員も進行の補助として参加させていただきます。グループワークは何より誰もが安心して発言できる環境づくりが大切ですので、よろしくお願いします。グループワークの時間は40分を予定しております。なお、その後、各グループの発表をいただきます。グループ発表は各2分程度でお願いします。全ての意見を発表することは時間的に難しいので、特に意見が多かったことを中心に、①から④をそれぞれご発表いただければと思います。どなたに発表していただくかを決めていただくのも時間が掛かりますので、大変恐縮でございますが、A グループは後藤会長、B グループは三浦副会長、C グループは山浦公民館長にお願いしたいと思います。それでは、各グループワークに入っていただきます。よろしくお願いします。

(グループワーク)

それでは時間になりましたので、グループワークを終了していただければと思います。これから各グループで発表をしていただきますが、Aグループから順番に発表をしていただきます。様々な意見が出たと思いますが、①から④のそれぞれ特徴的な意見等について発表をいただきたいと思います。

(各グループ発表)

Aグループ 後藤会長 遠山郷学園の先行事例という形での学びということで、こどもをまんやかに置いてという視点と、委員それぞれの立場または地域ということも大事な柱にしながら意見交換ができました。保護者、地域の皆さんのところで言いますと、とにかく地域の人口減少、こどもの数の減少という危機意識があり、今回の要望書に、2地区のまちづくり委員会が共に同じことを書いている点が非常に重要だということを学ばせてもらい、この点にたくさんの意見が出ました。

具体例としましては、要望書で触れてありましたが、保育園の園児が2つの小学校に分かれていくという課題について、他の地域で実際に保育園から一緒に学んだ園児が2つの小学校へ分かれたり、2つの学園にまたがる学校もあるといった課題とも重なりました。これは、遠山郷学園から学ぶとともに、その他の地域においても課題となっているということでした。

そして、もう一つ大きなことは、まちづくり委員会と学校運営協議会が、ひとつにまとまりながら動いている点です。それは危機意識から来ているのだろうということで、共通認識を持ったところですが、それぞれの委員の皆さんからは、ここがうまくいってないのではないかという発言が多くありました。このことは、今後考えていく上で、大事な具体的な視点だと思います。つまり、これは教育委員会の課題の方にも入っているし、うまくいっているという場合にも入っているということは、そういった理由です。

教育委員会の関係で言いますと、保護者に課題を明確に伝えているということ。また、逆に改善点では、保護者や地域に課題を明確に伝えることが大事だということにもなります。保護者や地域の危機意識ということも大事ですが、課題を明確に伝えることが学んだところになります。

それからもう一点だけ触れておきます。施設分離型ということで、先ほどの小学校入学の時点で分かれていくということと同じですが、ネックになっているのが通学のことということが、話題になりまし

た。ここは配置・枠組みのときに重要だということで、視点をみんなが共有したところでございます。いくつか他にも書かれていることはありますが、遠山郷学園から学んだこと、それから、それを基に、それぞれの地域の課題が見えたということで、話題になったところを発表させていただきました。

B グループ 三浦副会長 B グループは大切にすべき点、今後の参考になる点というところから発表します。A グループでも出ておりましたが、こどもまんなかという部分です。これに関して、こどものことを考える上で、まず保護者の意見を聞くということはとても大切なことで、遠山郷学園会議の取組では、保護者の声として「迅速に進めてほしい。」といったものに背中を押されたというお話がありました。また、保護者の意見を聞く際には、保育園をはじめとした未就学児、そして小学生、中学生等、子育て中の保護者の方の意見を聞いて、こどもまんなかというものを考えていく、これが大切ではないかという意見が出されております。

市教育委員会や市の関わり方に関しましては、市教育委員会も一緒に議論してくれたというお話がありまして、学校再編の取組を進めて考えていく上で、とても大切なことであろうという意見が出されております。

続いて、取組の障害となる点、気になる点について、まず、地域や保護者の取組では、先ほどはこどもまんなかでしたけれども、ここでは地域コミュニティを真ん中にといった視点がなくなってしまうということは、地域にとって本当に問題であるという点に関して意見が出されました。私たちのグループには玉置さんもいらっやいまして、もっと詳しいお話をお聞きしましたが、大変なご苦労されているというお話も聞いております。一つ一つのことを言いにくい、責任は誰が取るのか等という話になってきます。学校がなくなってしまうという地域の思いや考え方は一つの障害といったものになり得ます。もう一つは、将来が見えてこない、どういった時に危機感を持たなければいけないのかという将来が見えないという意見も出されました。遠山郷学園では、危機感があってというお話でしたが、他の地域にしますと、いつ危機感を持てばいいのかわからないということがあります。そうなりますと、市教育委員会の考え、取組の支援などというところでは、あるべき姿の方針を示していくと言った、市の姿勢も大切に、学校の運営コストであるとか、将来の財政の見通し等、市民の方が知る由もない視点から、地域の危機意識を認識してもらい、議論を始めるタイミングを各地域で計っていくということが大切なのではないかという意見が出ております。以上です。

C グループ 山浦委員 私たちのグループは5名いますので、さまざまな視点から濃密な議論ができたと思いますが、全てを取り上げるわけにはいきませんので、概要をお話しします。まず大事にすべき点、今後の参考になる点の部分ですけれども、遠山郷学園の取組について説明していただいたわけですが、その説明から重要な点をキーワード的に申し上げますと、地域の主体性、分析的思考とその解決に向けた様々な実践、学校と地域でつくる学びの未来を考えていること、飯田学園構想に関係した情報収集力やスピード感、対話と合意形成を大事にしている点など、学ぶべき点がとても多かったです。しかし、地域の中に入ってみると、住民の温度差があったり、問題意識の違いがあったりということで、キャッチフレーズは「こどもまんなか」とは言っているけれども、やはり自分中心になっている部分がありませんかというようなご意見もありました。そういう中で、やはり市教育委員会では、常に課題とミッションを共有しながら、その地域の伴走に徹してくれているという点で、寄り添う姿勢というのはありがたいなということを感じています。

取組の障害の部分についてですけれども、遠山郷学園のように児童生徒数の減少という緊急的な課題がありすぐにやらなければいけないというところではありますが、地域によってはまだまだ大丈夫だというようなことから、学園構想や学校のあり方についての問題意識の低さがあるという意見もありました。また、既存の組織である学校運営協議会やコミュニティスクール、それから学園地域コーディ

ネーターの配置ということで、それぞれの機関の役割や仕組み、どのようなシステムで動いていけばいいのかということは、今後整理が必要だという意見がありました。更に、学園内で組織を立ち上げていく時の委員の選出は最も大事なポイントになってくるという意見もありました。

最後に、このあり方審議会でこれから議論していかなければいけない点については、これから各学園の優先順位をどうすればいいのか、緊急性や重要性が高い学園地域は早くやるとか、あるいは地域が主体的に動いているところを早くやるということではなくて、やはりどのような順位性を持ちながらやっていくのかという点が一つ。それからもう一つは、今までの学校のあり方審議会の議論で、目的と目的地と道のりは明確になっているので、これからは、例えば施設分離型や施設一体型等のどういう乗り物に乗っていくのかということをこれから選択をしていかなければいけないと思います。遠山郷学園は、1小学校1中学校で、施設分離型という乗り物に乗っていきますという選択をしたわけですが、これから他の学園も、どういう乗り物にするかということは議論していかななくてはならないので、そういった乗り物の見通しは、この学校のあり方審議会で提案をしていくことが大事になってくるのではないかという話になりました。以上です。

事務局 上沼教育政策課長 各グループのまとめをご発表いただきありがとうございました。それでは、グループのまとめをお聞きいただいたコメントとなりますが、坂野先生、井出先生よりコメントをお願いいたします。

(坂野委員、井出委員からコメント)

坂野委員 まず一点目ですけれども、こどもをまんやかに置いてということについては、ほとんどのグループで共有されていたかと思います。問題となるのは、ここにいる審議会委員の方々は共有できていますが、他の方々がどれくらいその意識があるかということは考えておく必要があると思います。

二点目として、市のサポートのことですが、今の市のサポートは良いのではないかということが、グループの発表から読み取れました。つまり、対話型で共にやっていくという姿勢が、関係者の中では共有されている。ただし、これまで議論に加わっていない方々に対して、市教育委員会の姿勢や立ち位置をどのように伝えていくかが課題になってくるかと思います。

三点目になりますが、今後に向けて改善した方が良い点ですが、遠山郷学園会議の取組から、多少延びたが、先にいつまでに決めるかという期限を定めていたことが重要で、学校のあり方の方向性について誰が決めるかということが問題になるところであります。先に市教育委員会が示してしまうと、出口が決められていて地域としてやりたくないという思いが出てしまうが、地域の方々の中で、期限を定めたということがまさに良いプロセスなのだと思います。

四点目についてですが、遠山郷学園会議の取組のお話にもありましたが、会議の回数が非常に多くなったということで、参加している委員の方々の負担が生じてしまっています。その負担感をどのように捉えていくかが大切で、相互理解を深めるための手続きであるというような捉え方を共有できると良いかと思いました。以上です。よろしくお願いします。

井出委員 それぞれのグループ発表の中でほとんど大事な部分に触れていますので、それを踏まえていくつかお話をします。

一つは、遠山郷学園をサンプルに色々話し合いをしましたけれども、これが例えば、緑ヶ丘学園や旭ヶ丘学園といった地域の問題を考える時には、全く違った問題が出てくるだろうということです。つまり、非常に良い進め方をしているけれども、これは遠山郷の児童生徒数の急激な減少という、非常にわかりやすい問題があって、それをみんなで考えていこうと当事者意識を持って話し合っていたという、良い組み合わせが良い関係ができていたから進んでいったところがあります。逆に、大きい規

模の学園は、児童生徒数は減っていないし、地域はますます広がっているというところで、同じモデルとして考えることはできません。ここのところは先ほど最後のグループの乗り物議論をどうしていくかというところに繋がっていくと思います。二つ目は、これからどういう乗り物に乗っていくのか考える時に、重要な視点は自治体が今後その個々の地域をどのように発展させていこうとしているのかということです。つまり、住民福祉をどのような形で充実させていこうとしているのかという視点。その中で大きな役割は教育があるわけですが、学校再編という形で矮小化しないように、あくまで飯田市全体の地域の活性化、行政サービスの充実といった視点から捉えていくことが必要だと思います。なので、ぜひ、教育委員会と地域の人たちだけで話をまとめさせられないように、広く、市としてはどういう方向性を持っているのかということ、常に市長部局とタイアップして考えていく必要があらうかと思います。今後、特に本日指摘された今後どういう乗り物に乗っていこうとしているのかという視点は、学校教育だけの問題ではないので、ぜひ、そういった議論も進めていくようにしてください。以上です。

事務局 上沼教育政策課長 坂野委員、井出委員、ありがとうございました。続いて、時間が押しておりますが、最後の取組となります。振り返り、個人ワークシートの作成となります。各グループの発表及び坂野委員、井出委員からのコメントをお聞きいただいた上で、本日のワークの振り返りといたしまして、資料No.9の個人ワークシート裏面に、皆様のお考え等をご記入ください。特に、グループワークの中で発言できなかったと思うことも含めまして、良いところ、大事にしていきたいところを生かした取組のポイントや、障害を取り除き、改善しながら取組を進めるポイントについて、お考え等をご記入いただければと思います。10分ほど時間を取りますので、ご記入いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(個人ワークシートの作成)

それでは時間がまいりましたので、個人ワークシート作成を終了とさせていただきます。多くのご意見をいただきありがとうございました。本日出された意見等につきましては、集約に活用させていただくため、個人ワークシートをご提出いただきます。氏名をご記入いただき、机の上に置いてお帰り下さい。グループワーク等は以上です。

後藤会長 どうもありがとうございました。それでは本日の協議事項は以上となりますけれど、本日の内容を事務局でまとめていただき、次回の審議、協議に繋げてまいりたいと思います。

6 連絡事項

事務局 萩元係長 2点連絡がございます。まず一点目、会議録についてですが、こちらでまとめさせていただいて、正副会長及びご発言いただいた方にご確認いただいて、公表してまいりたいと思っておりますのでご承知おきください。なお、グループワークに関しましては、会長からもお話がありましたけれども、議事録という形ではなく、個人ワークシート、また机の上にあります模造紙の記載事項をまとめさせていただいて、次回の審議会でお示しをさせていただきたいと思います。

二点目でございます。次回、第3回目の審議会でございますが、現段階では、令和7年12月22日月曜日に、この会場で午後7時から予定しております。詳細につきましては、ご通知を申し上げますので、今からご予約をお願いしたいと思います。事務局からは以上でございます。

7 閉会挨拶 三浦副会長

委員の皆様お疲れ様でした。グループワークを通して、私自身も本当に自分事として深く、これからの学校のあり方に関する話題を考えることができたと思います。こうあるべきではなく、どうあるべきな

のかということを議論していくということの大切さを改めて感じました。そして、坂野先生からは、議論に加わっていない市民の方々がたくさんいるという認識を持った上で対話していくことが大切であるといった視点をいただきました。また、井出先生からは、遠山郷学園はわかりやすい共通課題があり、そういった特殊な事例からもたらされる、学校のあり方を考えていく視点というものをしっかり持っていないといけないといったところをご助言いただいたかと思います。

また、どのような乗り物に乗るかという C グループからの発表にもあったかと思いますが、井出先生からも触れていただいております。市教育委員会や飯田市、行政の方からも飯田市がこれからどのような方向に向かっていくのかということを示していただいて、地域の住民と寄り添っていただきながら、同じ土俵に立って議論していただきたいと、このワークの中で感じたところです。

委員の皆様はどのような感想を持たれましたでしょうか。感想になってしまいましたけれども、私からは以上になります。本日はありがとうございました。

後藤会長 ありがとうございました。

本日、それぞれ大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございました。坂野委員さん、井出委員さんも本当にありがとうございました。

次回もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。